



## 暮らしの風景

# 真壁のまちなみ 山並みの風景

【茨城県桜川市】

筑波山の北、真壁のまちは、地域の文化と経済の中心であった。今も変わらない山並みを背景として、歴史的まちなみと、人びとの暮らしがある。

文——大森晃彦 Akihiko Omori  
絵——佐々木悟郎 Goro Sasaki



### 峠を越えて

桜川市真壁町の重要伝統的建造物群保存地区を訪れるのは二度目なので、次に車で来るときはぜひ通ってみたいと思っていた筑波山北側の上曾峠を越えるルートを選んだ。

晩秋の晴れた休日、常磐自動車道を石岡小美玉ICで降り、左手に筑波山を望みながら県道七号石岡筑西線を西へ向かった。柿岡の集落を抜けて少し行くと山道が始まる。きのこ山の南の峠を越えたあたりから、道は谷筋の真っ直ぐな下り坂となり、真壁のまちへと降りていく。

筑波山から連なる山並みを東に背負う真壁のまちは、西側にやや離れて桜川（桜川市の名称の由来となっている）が流れ、まちの南北に桜川に注ぐ川があって領域をつくっている。水田地帯に張り出した半島のような土地なのである。

### 歴史が重層するまちなみ

真壁のまちの歴史は、戦国時代末期に築かれた真壁城の西側の集落にはじまる。江戸時代に真壁城が廃された後は、まちの中心部に陣屋（藩の政庁）が置かれるようになった。かつて陣屋の表門があった「御陣屋前通り」には、江戸時代後期から明治、大正、昭和初期を通して地域の文化と経済の中心地であった真壁の、繁栄



かつて陣屋の庭園であったところに建てられた真壁伝承館。まちの東に見える山並みの風景を巧みに取り込んでいる。



## 暮らしの風景



と豊かさを伝える建物が集中している。江戸時代中期に描かれた「真壁町屋敷絵図」そのままの町割りを保ちながら、近世末から近代という大きな変動期の建物が数多く残されているのが、真壁の重要伝統的建造物群保存地区の特徴だ。二〇〇三年来、行政は歴史的たたずまいを継承したまちづくりを目指して、登録文化財制度を活用した建造物の保存を積極的に進めてきた。登録有形文化財建造物は一〇四棟にのぼる。重要伝統的建造物群保存地区に選定されたのは二〇一〇年。茨城県内では初めてであり、関東では川越、佐原などに続く四例目であった。

### 鉄網コンクリート壁

登録文化財の中でもユニークなのが、御陣屋前通り中心部の角地に建つ「旧真壁郵便局」(昭和二年・一九二七年)だ。第五十銀行として建てられたもので、唯一の瓦屋根でない登録文化財である。外観は鉄筋コンクリート造に見えるが、実は木造(木骨)で、外壁を鉄筋ならぬ「鉄網コンクリート壁」としている。その工法は明治末に建築家、三橋四郎が耐火性を高めるものとして発案したが、耐震性に問題ありとされ、あまり普及しなかったという。

その歴史的価値もさることながら、瓦屋根の中に鉄網コンクリート壁の建物がある、時代の

変わり目を映す歴史的風景が興味深い。「伝統的建造物群」という名前の放つ、どこかテーマパーク的なイメージとはずいぶん違うものがある。そして、この建物の存在は、歴史的な景観の中に新しい建物を挿入することを考える上で、とても重要である。

### 東を上、雑めぐりマップ

まちの豊かさは建物の中にもある。二〇〇三年から始まった住民の自主活動の「真壁のひなまつり」は、毎年二月四日から三月三日まで開催され、近年は一〇万人以上の観光客を集める一大イベントとなった。真壁が一年のうちでも多くの人で溢れる一カ月だ。店舗や一般の家々に雛人形が飾られ、観光客は「雑めぐりマップ」を片手に巡り歩く。

この雑めぐりマップが実によくできている。地図は東が上で、上部に山並みのシルエットが描かれ、「マップを山並みに合わせるとわかりやすくなります」と添えられている。ここには住民が認識する自らのまちが、大げさに言えば世界観がある。

### 風景の中の「真壁伝承館」

二〇一一年九月にオープンした真壁伝承館の敷地はかつての陣屋の一部である。公民館、歴史資料館、図書館の機能をもつ複合施設で、ビクターセンターとしての役割も担う。設計者である渡辺真理さんと木下庸子さんの話で印象的だったのは、「伝統的建造物のレプリカをつくらない」ということ。建物のボリューム構成や屋根の勾配、ディテールなどを、伝統的なまちなみからサンプリングし、再構成する手法を採っているが、伝統の模造ではない現代の、そして建築家独自の建築になっている。実際に見て、最も成功していると感じたのは、建物の配置とその隙間のプロポーション、そしてそこから覗く山並みだ。建築家の視線は周囲のまちなみを越えて風景を捉えている。

### 震災を越えて

東日本大震災で、真壁の登録有形文化財建造物の約七割が屋根や外壁に損傷を受けた。倒壊した土蔵や石蔵もあった。はたして二〇一二年、真壁のひなまつりは開催されるのだろうかと心配していたところ「開催が決定しました!」というウェブページを見ることができた。雑めぐりマップを手に、ぜひ、まちを巡ってみてはいかがだろうか。

北東側の田んぼ越しに見た真壁のまちなみ。左に見えている筑波山の方向がほぼ真南になる。あぜ道は町割りの軸線にそろっている。

おおもり・あきひこ●建築ジャーナリスト。一九五五年、東京生まれ。一九七八年早稲田大学建築学科卒。一九八〇年同大学院修了後、新建築社入社。「新建築」編集長ほかを歴任。二〇一〇年建築メディア研究所を設立。